

京浜協同劇団・第96回公演 (2022年)

二本立

古典落語「井戸の茶碗」より

正直・清兵衛



伊地知克介／作 朗読劇

米屋はまだ無事か



江戸の昔も、現代も

変わらぬ庶民の人情、おもいやり

心に響く、二本立て公演

京浜の舞台でお楽しみ下さい

会場 = スペース京浜

●演出 = 護柔 一

●制作 = 田中耕一

2022年11月 19(土)・20(日)・23(水/祝)・26(土)・27(日)

◆予約制 (前売 ¥3000)です。◆開演は毎回、午前11時と午後3時の2回公演

【後援】川崎市・川崎市教育委員会・(公財)川崎市文化財団 神奈川新聞社・朝日新聞川崎支局
読売新聞川崎支局・東京新聞川崎支局・毎日新聞川崎支局・タウンニュース社・川崎文化会議
全日本リアリズム演劇会議 【協力】京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間



好評の二本立

演出／護柔一

古典落語「井戸の茶碗」より

正直・清兵衛

朗読劇 伊地知克介/作

米屋はまだ無事か



麻布荳荷谷に住むくず屋の清兵衛、人呼んで正直清兵衛。今日も白金の清正公(せいしょうこう)脇、裏長屋から呼び掛ける声。質素ながら、器量良く品のある十七、八の娘に呼ばれて行ってみると、貧乏浪人の千代田ト斎から、普段扱われない仏像を、二百文で預かることに。細川家の屋敷下で呼び止められ、家来の高木作左衛門に、仏像が気に入ったと三百文で買い上げてもらう。講談を基にした物語です。登場人物がすべて善人たちというさすががしきを感じる古典落語の「井戸の茶碗」を舞台化した作品。正直者たちがみせる人情と意地が笑いを誘うお芝居は、現代人が忘れかけた何かを思い出させます。

2011年・東日本大震災の日。その町は備えていた。津波に襲われた歴史と被害を乗り越えた教訓を、持っていた。訓練も重ねてきた。この町に一人の米屋がいた。都会から移ってきた彼は、お米を売ることで町の人々と心を通わせていた。大地震の発生、大津波が町の人々を襲う。そこで彼がとった行動は…。町の人々は？ 米屋は無事なのか？ 米屋の青年と町の人々が、次々に襲われる見えない敵、サメ。朗読劇が創り出す新たなドラマがスペース京浜の空間に誕生する。人々が生きるのに必要なものは何？ 「米屋」にその答えはあるのだろうか。感性に、刺激を感じさせる作品です。

会場

スペース京浜

全席自由席
開場は30分前です。

【料金】

- ◇一般 ¥3,000
- ◇学生・障害者 ¥1,500
(当日各¥500増)

◆予約制◆

- (お申込み下さい)
- ◇日時指定・全席自由

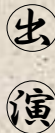
Staff

- 演出…護柔 一
- 美術…伊藤 厚
- 照明…前川裕幸
(ライティングユニオン)
- 音響…河村はじめ
- 衣装…劇団衣装部
若菜とき子
- 大道具…伊藤 厚
- 小道具…護柔 一
- 制作…田中耕一
- 制作班…城谷 護
瀬谷やほこ
河村はじめ
- 演出班…渡辺そのこ
篠崎旗江
- 舞台監督…護柔一

【日程】2022年11月19(土) 20(日) 23(水祝) 26(土) 27(日)

11時 A B A B A B
15時 B A B A B

ダブル・キャスト



A 瀬谷やほこ 渡辺そのこ 篠崎旗江 B 若菜ときこ 石川房乃(客演) 大井かおる(客演)



村上浩史(客演) 飛田ニケ(客演) 川上陽菜子(客演) 福井 杏(客演)
河村はじめ 田中耕一 大谷敏行 城谷 護 藤井康雄

◇「正直・清兵衛」出演(娘役)

2019 26(土) 福井 杏
23 27 川上陽菜子

追悼・和田庸子



劇団員和田庸子は、急病で5月26日に急逝しました。その十日前までは、自作『おーい！煙突男よ』が川崎郷土市民劇として上演され、大きな拍手をいただいたばかりでした。生前、皆様にご支援いただきましたことを感謝申し上げます。



◆入場の際の検温、手消毒、鑑賞の際にはマスクの着用をお願いします。

